

平成 3 0 年度使用
小学校用（道徳）教科用図書に
ついての調査審議結果（⑦）

道 徳 8 種

発行者の番号略称	書名
2 東書	あたらしいどうとく
1 1 学図	かがやけみらい しょうがっこう どうとく
1 7 教出	小学どうとく はばたこうあすへ
3 8 光村	どうとく きみが いちばん ひかるとき
1 1 6 日文	しょうがくどうとく いきる ちから
2 0 8 光文	しょうがく どうとく ゆたかな ころろ
2 2 4 学研	みんなのどうとく
2 3 2 廣あかつき	みんなでかんがえ, はなしあう しょうがくせい いのどうとく

平成30年度使用教科用図書審議結果 ⑦

道徳

発行者の番号 略称	書名	編修の基本方針	教育基本法、学校教育法 及び学習指導要領との関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
2 東 書	あたらしいどうとく 1 新しいどうとく 2 新しいどうとく 3 新しいどうとく 4 新しい道徳 5 新しい道徳 6	<ul style="list-style-type: none"> ・「人生や生活に生きて働く道徳性」を育成するために3つの基本方針によって編修されている。 ・「よりよく生きようとする心」を育てる教科書では、「問題解決的な学習」「いじめ問題に対応した教材の配置」「人との関わりの中で考えることができる学習活動」を視点に編修している。 ・「確かな道徳性を育てる教科書」では、「心に響く教材」「指導内容の重点化」「各教科等との関連、家庭や地域との連携」に視点をおいて編修している。 ・「主体的に学習に取り組む態度」を育てる教科書では、「見通しを持った学習」「学習の進め方と授業の様子を具体的に提示」「ふり返りのページの設定」に視点をおいて編修している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法に示されている「豊かな情操と道徳心を培うこと」に関連して、各学年の学習や生活に関連付けて、考えを深めるために「付録」が設けられている。 ・学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」に関連して、巻頭に学習の進め方が示されている。巻末に学習の振り返りが設けられている。教材ごとに学習の手がかりが示されている。 ・学習指導要領の主な改善事項である「体験活動の充実」に関連して、福祉体験やボランティア体験などの体験活動との関連をはかる場面が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発問や話し合い等に関すること】 ・教材の前に道徳で学ぶ内容を示した内容項目のマークと教材名の右横に学習のテーマを示している。 ・教材の後に、教材に関わる発問と道徳的価値を自分との関わりで考える発問がある。 ・人とのかかわりで考えることができる「出会う・ふれあう」を全学年に2か所ずつ掲載している。 【いじめ防止に関すること】 ・2つの教材を組み合わせた、ユニット形式を取り入れている。「とびらのページ」でいじめについて投げかけ、主体的に考えることを促す工夫がされている。 ・直接的教材・間接的教材と学んでいくことで、複数時間で考えることができるようにしている。 【現代的な課題に関すること】 ・情報モラル、食育、健康教育、防災教育、福祉に関する教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、持続可能な発展についての課題を掲載している。 【言語活動に関すること】 ・巻頭の「道徳の学習をすすめるために」のページには、話し合いの約束が示されている。 【かわさき教育プランに関連すること】 ・人との関わりの中で考えることができる学習活動ページ「出会う・ふれあう」は、基本目標の「共生・協働」に関わると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習の進め方に関すること】 ・巻頭には、学習の進め方が示されている。「気づく」「考える、話し合う」「ふり返る、見つめる」「生かす」の4つで道徳の流れをつかむことが示されている。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 ・全学年を通しての重要指導内容「節度、節制」「親切、思いやり」「規則の尊重」「生命の尊さ」「自然愛護」としている。 ・各学年の重要指導内容を低学年では「善悪の判断、自律、自由と責任」「礼儀」、中学年では「善悪の判断、自律、自由と責任」「友情、信頼」「希望と勇気、努力と強い意志」「勤労、公共の精神」、高学年では「希望と勇気、努力と強い意志」「友情、信頼」「勤労、公共の精神」「よりよい学校生活、集団生活の充実」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」としている。 【挿絵や写真に関すること】 ・教材への関心が高まるよう、大きく掲載しており、余白を確保している。ゆとりある紙面構成になっている。 【各教科等との関連に関すること】 ・巻末の付録に各教科等と関連した内容を掲載している。 【家庭や地域との連携に関すること】 ・各学年で家族や地域活動に関する題材を取り上げている。 【記入や記録に関すること】 ・巻末に「学習のふり返り」の欄があり、授業の中で印象に残ったことなどをメモしておくようになっている。巻末の「かがやくじぶんに」では、1年間の振り返りと新しい学年への思いが書けるようになっている。 【判型に関すること】 ・AB判を採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 ・漢字は、国語科の配当学年に準じて、原則として当該学年の前までの配当漢字を使用している。 ・書体は、独自に開発した少し太めの教科書体を使用している。 【内容項目や主題の示し方】 ・教材の前に、道徳の内容の4つの視点のマークと内容項目を児童のわかりやすい言葉で示している。 【読みやすさ】 ・見開きで始まる教材と左側から始まる教材とがある。 ・教材によって文字の大きさが違う。 ・1ページを2段で示している教材もある。 ・1、2年では、教材本文をまとまりごとに改行(文節改行)している。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 ・全ページにわたって配色や色に関わる表現を点検し、全ての児童が支障なく学習できるように配慮している。 【マークやキャラクターに関すること】 ・内容項目との関連を示したマークがある。 ・学習をガイドするキャラクターがある。
11 学 図	かがやけみらいしょうがっこう どうとく 1ねん よみもの かがやけみらいしょうがっこう どうとく 1ねん かつどう かがやけみらい 小学校 どうとく 2年 よみもの かがやけみらい 小学校 どうとく 2年 かつどう かがやけみらい 小学校 どうとく 3年 読みもの かがやけみらい 小学校 どうとく 3年 活動 かがやけみらい 小学校 どうとく 4年 読みもの かがやけみらい 小学校 どうとく 4年 活動 かがやけみらい 小学校 道徳 5年 読みもの かがやけみらい 小学校 道徳 5年 活動 かがやけみらい 小学校 道徳 6年 読みもの かがやけみらい 小学校 道徳 6年 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら感じ、自ら考える教科書となるように教科書を「読みもの」「活動」の二部構成で編修している。 ・教科書の使い方を明確にするために、読本である「読みもの」と、書き込みなどの活動を促す「活動」とに分けて制作している。 ・「自分だったらどうするか」等の問いかけから、「思慮深さ」を培えるように編修している。 ・未来に希望をもち、明るく強い心を持つことをねらった題材を中心に編修している。 ・人と人、社会と人、環境と人、という視野の広がりの中で「共に生きる」ことを大きなテーマとして据えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法に示されている「豊かな情操と道徳心を培うこと」に関連して、今日的な課題や命について等の多様な「コラム」が設けられている。 ・学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」に関連して、巻頭に学習の進め方が示されている。読み物と併用する別冊ノートには「考えよう」「見つけよう」「話し合ってみよう」等の学習の手がかりが示されている。 ・学習指導要領の主な改善事項である「体験活動の充実」に関連して、別冊ノートに、「みんなにありがとうをつたえよう」など、行動を促し考える場面が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発問や話し合い等に関すること】 ・教材の前に内容項目と主題名を示している。 ・「読みもの」と「活動」の二分冊で構成されている。「活動」の発問には、「やってみよう」「はなしあおう」「かいてみよう」など、具体的な発問を設定している。 ・「アクティブ」のマークを重ね、対話的・協働的な学習を取り入れるようにしている。 【いじめ防止に関すること】 ・「いじめ」という直接的な表現を多用することなく、日常生活で起こりうる状況から、児童自身が問題点を見だし、感じ、考え、判断する教材内容になるよう配慮している。 【現代的な課題に関すること】 ・情報モラル、防災教育、福祉に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育についての課題を掲載している。 【言語活動に関すること】 ・「活動」の中に、他教科の学習で生きる様々な言語活動を盛り込んでいる。 【かわさき教育プランに関連すること】 ・未来に希望をもち、明るく強い心を持つ教材として、先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツを題材として配している。これらの教材が、基本理念に関わると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習の進め方に関すること】 ・各学年の「読みもの」の巻頭に、ガイドスペース「道徳の学習を始めよう」を配置し、道徳学習の基本が示されている。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 ・1、2年「善悪の判断、自律、自由と責任」「節度、節制」「親切、思いやり」「礼儀」「規則の尊重」「生命の尊さ」、3、4年「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「友情、信頼」「規則の尊重」「生命の尊さ」、5、6年「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「相互理解、寛容」「規則の尊重」「よりよい学校生活、集団生活の充実」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」「生命の尊さ」を各学年の重点項目にしている。 ・「生命の尊さ」をどの学年でも重点扱いとしている。 【挿絵や写真に関すること】 ・「活動」では、「読みもの」に関連した写真やイラストを用いている。 【各教科等との関連に関すること】 ・国語、社会、理科、家庭、音楽など、他教科と関連する題材を積極的に取り入れている。 【家庭や地域との連携に関すること】 ・「活動」の巻末に、「保護者の方へ」のページを設けて学年の学習内容を解説している。 【記入や記録に関すること】 ・「読みもの」の巻末には、学習の記録欄があり、マークや日にちを書くようになっている。 ・「活動」には、教材対応ページや特設ページに学習の過程や成果などを記述する欄がある。 【判型に関すること】 ・AB判を採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 ・学年配当漢字には全てふりがなを付け、配当外漢字についてはその都度ふりがなを付けている。 ・標準的な教科書体を使用している。 【内容項目や主題の示し方】 ・「読みもの」の教材の初めには、内容項目と主題を示している。 【読みやすさ】 ・見開きで始まるようになっている。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 ・カラーユニバーサルデザインの観点から、全ページにわたり配色とデザインに配慮をしている。 【マークやキャラクターに関すること】 ・道徳の内容の視点を示すマークがある。 ・授業での扱いを明示するマークがある。

発行者の番号 略称	書名	編修の基本方針	教育基本法、学校教育法 及び学習指導要領との関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
17 教出	小学どうとく1 はばたこうあすへ 小学どうとく2 はばたこう明日へ 小学どうとく3 はばたこう明日へ 小学どうとく4 はばたこう明日へ 小学道徳5 はばたこう明日へ 小学道徳6 はばたこう明日へ	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法に示された「教育の目標(教育基本法第二条第1～5号)」の達成を旨とし、4つの方針に基づいて編修している。 「次の時代を切り開いていく資質・能力を身に付ける教科書」では、知識と教養を身に付け、道徳心を培うことや個人の価値を尊重し、創造性を培うことができるように編修している。 「考え、議論する姿勢を身に付ける教科書」では、自主及び自律の精神や勤労を重んずる態度を養うことができるように編修している。 「現代的な課題を読み解く教科書」では、自他の敬愛や生命の尊重、国際社会の平和と発展への寄与等の態度を養うことができるように編修している。 「問題解決的な学習を重視した教科書」では、真理を求める態度や社会の形成に参画し、発展に寄与する態度を養うことができるように編修している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法に示されている「豊かな情操と道徳心を培うこと」に関連して、話し合いを深めるための投げかけをする「ジャンプ」が設けられている。 学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」に関連して、巻頭に道徳の授業について説明されている。内容項ごとに考える視点が示され、教材の終わりに学習の手がかりとなる「学びの手引き」が設けられている。 学習指導要領の主な改善事項である「体験活動の充実」に関連して、各学年に「やってみよう」があり、役割を演じたり、実際に行動を促したりする場面が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発問や話し合い等に関すること】 内容項目ごとに導入を配置している。 教材の後には「学びの手引き」が設けられており、価値への問い、今後の行動への示唆など価値理解を深める設問となっている。 スキルとして、体験を通して、人としての行いについて考えを深めることができるようにしている。 【いじめ防止に関すること】 いじめに関わる教材であることを巻末の学習内容一覧に示している。 いじめに直接関わるような教材を掲載している。 【現代的な課題に関すること】 情報モラル、食育、福祉に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、持続可能な発展についての課題を掲載している。 【言語活動に関すること】 道徳の時間のみならず、他の教科等での多様な教育活動の中で、言語活動を充実させ、一人一人が自由にのびのびと自己を語れるような配慮をしている。 【かわさき教育プランに関連すること】 生命を尊重する態度を育てることを重視している。「生きることの素晴らしさ」や「命が多くの人に支えられていること」などを考えることは、基本理念と関わると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習の進め方に関すること】 授業の流れを想定した「学びの手引き」が教材ごとに設けられている。教材本文につながる問いから、道徳的価値そのものへの問い、今後の行動への示唆などが示されている。児童の予想される回答も記載している。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 情報モラルと生命尊重は、それぞれ別のマークで示し、重点的に扱うようにしている。 【挿絵や写真に関すること】 挿絵や写真など大きく表し、ゆったりとした紙面としている。 挿絵や写真は、いずれも鮮明かつ明るいものを採用している。 【各教科等との関連に関すること】 1年は4本、2～6年は5本の補充教材を用意している。補充教材を各学校の教育活動の実態に合わせて活用することによって、他教科との関連を図ることも考えられている。 【家庭や地域との連携に関すること】 家庭、地域における児童の生活場면을題材とした教材を取り上げている。 【記入や記録に関すること】 巻頭に今の自分について書く欄がある。巻末に1年間の道徳の学習を振り返って記入する欄がある。 スキルの教材では記入の欄がある。 【判型に関すること】 AB判を採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 当該学年以上の配当漢字には、ふりがなが付けられている。 【内容項目や主題の示し方】 教材の前には、導入の言葉が示されている。内容項目に関わる言葉が示されている。 【読みやすさ】 見開きで始まる教材と左から始まる教材とがある。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 多様な色覚の児童に対応できるように配色・デザインに配慮している。 【マークやキャラクターに関すること】 マークによる分類と識別を図っている。内容の視点ごとにマークがある。「命を大切に」「みんなと仲よくする」「情報モラルについて理解する」のマークがある。
38 光村	どうとく 1 きみが いちばん ひかるとき どうとく 2 きみが いちばん ひかるとき どうとく 3 きみが いちばん ひかるとき どうとく 4 きみが いちばん ひかるとき 道徳 5 きみが いちばん ひかるとき 道徳 6 きみが いちばん ひかるとき	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の学習全体を通して、最も大切にすべきものとして、「命」を位置づけている。これを端的に表すフレーズとして「みんな 生きてる みんなで 生きてる」を各巻の冒頭に掲げている。また、3つの視点で編修している。 「考えたい教科書」では、発達段階を考慮した教材の選定に意を用いて編修している。 「語り合いたくなる教科書」では、無理なく自然に考えを表現できるよう、教材化を工夫して編修している。 「動きだしたくなる教科書」では、自分に自信をもち、みんなで力を合わせて行動したくなるようなしなやかな盛り込んで編修している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法に示されている「豊かな情操と道徳心を培うこと」に関連して、巻頭に、児童が話し合い考えを深めることができるよう「道徳の時間は」が設けられている。 学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」に関連して、巻頭に学習の進め方が示されている。教材のはじめに問いかけが示されている。教材の終わりに学習の手がかりとなる「考えよう」「つなげよう」が設けられている。 学習指導要領の主な改善事項である「体験活動の充実」に関連して、学んだことを行動につなげられるよう、教材ごとに「つなげよう」が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発問や話し合い等に関すること】 教材の前には、内容項目を示すマーク、主題名、児童への問いかけが示されている。 教材の後には、めあてを示している。また、「道徳的問題を明らかにする問い」「道徳的価値について考えを深める問い」「自分に引きつける問い」の3つの問いを掲載している。 【いじめ防止に関すること】 全学年を通して、様々な内容項目から「いじめ問題」に結び付く教材とコラムを組み合わせた「ユニット」が設定されている。これらの教材は、いずれも学年の前半に配当されており、学級づくり等に生かされるように配慮されている。 いじめに直接関わるような教材を掲載している。 【現代的な課題に関すること】 情報モラル、食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、持続可能な発展についての課題を掲載している。 【言語活動に関すること】 教科書の初めに、児童が主体的に考えられるよう、話し合ったり、書いたり、演じたりする言語活動を位置づけている。 【かわさき教育プランに関連すること】 道徳の学習全体を通して、最も大切にすべきものとして、「命」を位置づけている。また、これを端的に表すフレーズとして「みんな 生きてる みんなで 生きてる」を各巻の冒頭に掲げている。このことは、基本理念と関わると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習の進め方に関すること】 教材の冒頭でキャラクターが問いかけることにより導入となるようにしている。教材の後には、めあてが示されていてそのめあてに沿って道徳的問題を明らかにする問い、道徳的価値について考えを深める問い、自分にひきつける問い、テーマ的な問いが示されていて、他教科の学びや日々の生活へつなげられるようにしている。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 全学年通じて生命を大切に思う心の育成に重点を置いている。 低学年では「善悪の判断、自律、自由と責任」「節度・節制」「礼儀」「規則の尊重」、中学年では「善悪の判断、自律、自由と責任」「思いやり・親切」「友情、信頼」「規則の尊重」「よりよい学校生活、集団生活の充実」、高学年では「相互理解・寛容」「規則の尊重」「よりよい学校生活、集団生活の充実」「伝統文化の尊重国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」に重点を置いている。 【挿絵や写真に関すること】 教材の理解を助け、イメージを豊かに広げる絵・写真を配置している。 【各教科等との関連に関すること】 教材末の「学習のてびき」には「つなげよう」が設けられており、他教科等で学習する内容との関連付けなどが示されている。 【家庭や地域との連携に関すること】 第3学年以上コラムには「夏休みに調べてみよう」「冬休みに調べてみよう」が設けられている。児童が、長期休みの間に自主的な学びに生かしたり、家庭での話し合いにつなげたりすることができるようにしている。 【記入や記録に関すること】 1年間を4つの「学習のまとまり」に区切り、それぞれのまとまりの終わり、4か所(1年は3か所)に「学びの記録」を設けている。 【判型に関すること】 B5判を採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 教科書のためにデザインされた光村教科書体を用いている。 第1学年では数字以外は漢字表記とせず、平仮名が用いられている。第2～6学年では、当該学年の配当漢字に全てふりがなが付されている。 教材により文字の大きさが違っているものもある。 【内容項目や主題の示し方】 教材の冒頭には、主題が示されている。また、教材を通して学ぶ道徳的価値とを結びつけるキャラクターの問いかけがある。 【読みやすさ】 見開きで始まる教材と左側のページから始まる教材とがある。 1ページを2段で示している教材がある。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 第1、2 学年では、児童の読みのつまづきを軽減できるよう、行頭に助詞が来ないよう配慮している。 全編を通して見分けやすい配色になっている。また、色の別だけに頼らず、文字の説明を加えるなどして、色を見分けにくい児童にも情報が伝わるようにしている。 【マークやキャラクターに関すること】 教材の最初と最後に出てくるキャラクターがある。 内容の視点を示すマークがある。

発行者の番号 略称	書名	編修の基本方針	教育基本法、学校教育法 及び学習指導要領との関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
116 日 文	しょうがくどうとく いきる ちから 1 しょうがくどうとく いきる ちから 1 どうとくノート 小学どうとく 生きる 力 2 小学どうとく 生きる 力 2 どうとくノート 小学どうとく 生きる力 3 小学どうとく 生きる力 3 どうとくノート 小学どうとく 生きる力 4 小学どうとく 生きる力 4 どうとくノート 小学道徳 生きる力 5 小学道徳 生きる力 5 道徳ノート 小学道徳 生きる力 6 小学道徳 生きる力 6 道徳ノート	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが「よりよく生きる力」を育む助けとなることを願って、3つの基本方針から編修している。 児童の主体的な学びをサポートすることに関しては、「感動・共感をよぶ教材」「見やすい・親しみやすい、大きな紙面」「学習をガイドするキャラクター」を視点として編修している。 豊かな対話と学び合いのある道徳科の時間にすることに関しては、「学びに見通しを持つこと」「考えを引き出し、議論を活発にすること」「学習や指導を充実させること」を視点として編修している。 これからの社会的課題に対応することに関しては、「現代的・社会的課題への対応」「保護者への配慮」「系統性への配慮」「環境への配慮」を視点として編修している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法に示されている「豊かな情操と道徳心を培うこと」に関連して、教材の終わりに考えを深めることができるよう「心のベンチ」が設けられている。 学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」に関連して、巻頭に学習の進め方が示されている。教材ごとに学習の手がかりとなる「考えてみよう」「見よう 生かそう」や「学習の手引き」が設けられている。 学習指導要領の主な改善事項である「体験活動の充実」に関連して、学習の手引きの欄に登場人物になりきって考えたり、役割で演技をしたりしながら考える場面が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発問や話し合い等に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 教材の前には、主題名、導入のための発問例、あらすじ、主な登場人物が示されている。 教材の後には、教材に関わる発問と学習で学んだことを確かめる発問が設定されている。 別冊の道徳ノートがあり、教材に関わる発問と道徳的価値に関わる発問がありそれぞれについて記入欄がある。 「学習の手引き」を設けた教材では、児童の学びと教師の指導の参考例を示している。 【いじめ防止に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 現代的な事象そのものの教材だけではなく、「相互理解、寛容」「友情、信頼」「生命の尊重」などの内容項目で扱う教材の中から複数の教材を集中的に扱う構成とすることで、この問題に対する心情や態度の育成を図ろうとしている。 【現代的な課題に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル、食育、健康教育、防災教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、持続可能な発展についての課題を掲載している。 【言語活動に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> ペアワークやグループワークの学習形態を示している。 【かわさき教育プランに関連すること】 <ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを引き出すための紙面づくりをすることで、主体的な学びにつながるようにしている。児童の主体的な学びは、基本目標の「自主・自律」に関わると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習の進め方に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 「学習の学び方」のページで、学習方法として、①「気づく」②「考える・深める」③「見つめる・生かす」と示している。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 <ul style="list-style-type: none"> 重点指導項目は、複数の教材を掲載している。ここでは1年を例として示す。「善悪の判断、自律、自由と責任」「節度、節制」「個性の伸長」「礼儀」「友情、信頼」「規則の尊重」「公正、公平、社会正義」「よりよい学校生活、集団の充実」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「国際理解、国際親善」「生命の尊さ」 【挿絵や写真に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> AB判にすることで、大きなイラストや写真を載せている。 【各教科等との関連に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 他教科と関連付けるだけでなく、他教科等の学習活動そのものを素材とした教材を開発・掲載している。 【家庭や地域との連携に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 「道徳科」がどのような教科でどのような学習をするのかなどをオリエンテーションのページなどで保護者に伝えられるようになっている。 道徳ノートには保護者記入の欄がある。 【記入や記録に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 別冊の道徳ノートがあり、教材に関わる発問と道徳的価値との関わりで考える発問が掲載され、発問ごとに記入欄がある。友達の考えを書く欄がある。また、その時間の学習について「しっかり考えた」「新しく気づいたことがあった」「これから大切にしたいことがわかった」の欄があり○を付けるようになっている。 別冊の道徳ノートには、巻頭に自分のことを書く欄があり、巻末には道徳の学習で学んだことを記入する欄がある。 【判型に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> AB版を採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 <ul style="list-style-type: none"> 当該学年以上の配当漢字には、すべてふりがながつけられている。 文字は、児童が読みやすいように開発された教科書体を使用している。 【内容項目や主題の示し方】 <ul style="list-style-type: none"> 主題名を記載している。 導入のための発問が示されている。 あらすじと主な登場人物が示されている。 【読みやすさ】 <ul style="list-style-type: none"> すべて見開きで始まるようになっている。 読みやすい部分で改行している。 1ページを2段で示している教材もある。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 文字の大きさや書体、罫線や罫みの使い方、色使いなどレイアウトを工夫し、判読しやすくしている。 一人一人の色覚の違いを問わず、見やすいように、レイアウトは、色調や色の組み合わせに細部まで配慮している。 【マークやキャラクターに関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 内容項目との関連を示したマークがある。 学習をガイドするキャラクターがある。
208 光 文	しょうがく どうとく ゆたかな ころ 1ねん 小学 どうとく ゆたかな ころ 2年 小学どうとく ゆたかな心 3年 小学どうとく ゆたかな心 4年 小学道徳 ゆたかな心 5年 小学道徳 ゆたかな心 6年	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法第2条の教育の目標を達成するために8つの項目を以って基本方針としている。 自主的・主体的な学習となるように1年間の見通しをもった学習過程を示している。 学習効果を高める工夫として、授業の流れを提案している。 「生命の尊厳」「先人の伝記」「スポーツ」などの多様な教材を取り入れている。 生命尊重について、小学校6年間の見通しをもって取り組めるよう配置している。 主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように体験的な学習に配慮している。 オリエンテーションでは、児童が「問い」をもって授業に臨むことの重要性を示している。 家庭や地域との関わりのある活動を示し、日常の生活へつながるように配慮している。 個人の価値を尊重し、能力を伸ばすために、巻末に自己評価シートを掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法に示されている「豊かな情操と道徳心を培うこと」に関連して、教材の終わりに学んだことを生活に広げたるための投げかけが設けられている。 学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」に関連して、巻頭に学習の進め方が示されている。教材の初めに、考える視点が示され、教材の終わりに学習の手がかりとなる「まとめる」「広げる」が設けられている。 学習指導要領の主な改善事項である「体験活動の充実」に関連して、「みんなでやってみよう」で、友達と協力してできる連想ゲームやロールプレイングを行う場面が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発問や話し合い等に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 教材の前に、この話を通して考えたいことや問いが示してある。脚注に考えるためのポイントや見方が示してある。 教材の後には、学習のまとめとしての発問や生活の中でやってみたり深めたりする発問がある。 【いじめ防止に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 他者の良さを認め、差別や偏見をもち、分け隔てなく接する心を扱った教材を用意している。 直接的に関わるような教材と間接的に関わるような教材とがある。 【現代的な課題に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル、伝統と文化、キャリア教育を取り上げている。 【言語活動に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 読書活動につながる提案をしている。コラム「ことばのたからもの」では語彙の獲得につながるように名言や格言を紹介している。 【かわさき教育プランに関連すること】 <ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学習に取り組めるように、各巻の冒頭に「さあ、道徳の学習が始まります」が配置されている。このことは、基本目標の「自主・自律」にも関わると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習の進め方に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 教科書の初めに、学習の見通しをもてるように、道徳の学習の流れが示されている。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 <ul style="list-style-type: none"> 1・2年「善悪の判断、自律、自由と責任」「節度、節制」「生命の尊重」、3年「規則の尊重」「友情、信頼」「よりよい学校生活、集団生活の充実」「生命の尊重」、4年「規則の尊重」「友情・信頼」「生命の尊重」、5年「相互理解、寛容」「勤労・公共の精神」「生命の尊重」、6年「規則の尊重」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「生命の尊重」を学年ごとの重点としている。 6年間の見通しをもって取り組む重点として「生命の尊さ」を設定している。 【挿絵や写真に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 教科書のサイズを大判化することで、写真やイラストが引き立つようになっている。 【各教科等との関連に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 他教科等とのつながりのある教材を精選している。 【家庭や地域との連携に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 教材には、家庭での出来事や地域との交流などが取り入れられている。 【記入や記録に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 巻末に授業記録の欄があり、毎時間の道徳の授業について、授業を受けた後の気持ちを矢印で示す欄と一言を書く欄がある。 巻末には道徳で学んだことをまとめる欄がある。 人間関係を豊かにするコラム「みんなでやってみよう」には、コラムの活動に合わせた自分の考えを記入する欄がある。 【判型に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> A4判に近いサイズを採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 <ul style="list-style-type: none"> 教材によって文字の大きさが違う。 漢字は前学年までに学習した漢字のみを使用している。1から3年は全ての漢字にふりがなをつけている。 【内容項目や主題の示し方】 <ul style="list-style-type: none"> 教材の前にこの話を通して考えたいことや問いなどを示している。 【読みやすさ】 <ul style="list-style-type: none"> 全て見開きで始まるようになっている。 文節で改行を行い読みやすさに配慮している。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 色の区別が苦手な児童にもわかりやすいように、イラストや図表の色使いを工夫している。 【マークやキャラクターに関すること】 <ul style="list-style-type: none"> 道徳の内容の4つの視点ごとのマークがある。 授業を振り返り、活動へと広げることが示されている「まとめるマーク」と「ひろげるマーク」がある。 キャラクターを設定して、発問を投げかけるようにしている。

発行者の番号 略称	書名	編修の基本方針	教育基本法、学校教育法 及び学習指導要領との関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
224 学 研	みんなのどうとく1ねん みんなのどうとく2年 みんなのどうとく3年 みんなの道徳4年 みんなの道徳5年 みんなの道徳6年	<ul style="list-style-type: none"> ・「肯定的、積極的なものの見方、考え方、感じ方で、心豊かに生きていくこと」「未来に目標を定め、夢や希望をもって、力強く歩み出すこと」を趣旨として編修している。また、4つの視点で編修をしている。 ・自ら課題を見つけることができるように、児童の問題意識を大切にした構成・展開にし、問題解決的な学習の道筋を「学び方のページ」に提示している。 ・多様な学びの展開では「考え、議論する道徳」となるように、4種類の「学び方のページ」を展開することで、多様な学習指導過程が創造できるようにしている。 ・最重点テーマを「いのちの教育」としている。 ・「1年間の見直しをもった学習となること」「主体性や自尊感情を高める全体構成」「4つの視点の色分けした明示」「魅力ある教材」「印象的な挿し絵や写真」「すべての読み物が見開きで始まること」など学びやすさに配慮して編修している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法に示されている「豊かな情操と道徳心を培うこと」に関連して、「考えを深めるために、「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「ひろげよう」の学びの場面が設けられている。 ・学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」に関連して、巻頭に学習の進め方が示されている。教材の終わりに「つなげよう」「深めよう」「広げよう」等が設けられ、「深めよう」では考え方の流れが示されている。 ・学習指導要領の主な改善事項である「体験活動の充実」に関連して、教材をもとに話し合う活動や役割演技をして心情を理解する活動が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発問や話し合い等に関すること】 ・主題名を本文の前に記載しないことで、特定の価値観を押し付けることなく、児童の問題意識「問い」を大切にしている。 ・教材の終わりには、教材に関する発問と自己を見つめるきっかけとなる発問が設定されている。 ・「学び方のページ」を設け、多面的・多角的に学んだり、体験的な学習活動で考えたり、自分の生活につなげたり、できるようにしている。 【いじめ防止に関すること】 ・いじめ防止につながる教材を多く設定し、相互理解や人権の観点からも幅広く学ぶことができるようになっている。 ・いじめをテーマに考え議論できる教材と他者と共によりよく生きることについて考え議論できる教材とがある。 【現代的な課題に関すること】 ・情報モラル、食育、健康教育、消費者教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、持続可能な発展についての課題を掲載している。 【言語活動に関すること】 ・巻頭の「道徳の学習が始まるよ」に「語り合い、考えを練ろう」が設けられ、見方を変える、話し合う、表現することについて説明されている。 【かわさき教育プランに関連すること】 ・編修の基本方針である「未来志向」では、夢や希望をもって力強く歩み出すことが示されている。このことは、基本理念と関わると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習の進め方に関すること】 ・授業の学び方を紹介するページ、道徳の学びの全体をつかむページがあり、一年間の見直しをもって学習を進めることができる。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 ・重点テーマを「いのちの教育」とし、生命の尊さを重んじ、自立した一人の人間として、人生を他者とともによりよく生きることをねらいとしている。 ・2学年ごとに設定した重点テーマがある。1、2年「しっかり生きる」、3、4年「仲よく生きる」、5、6年「よりよく生きる」 ・重点テーマには中扉が付いている。 【挿絵や写真に関すること】 ・教科書のサイズをA4版にすることで、挿絵や資料を豊富に載せている。 【各教科等との関連に関すること】 ・巻末に全ての教材についての各教科等との関連を明記している。 【家庭や地域との連携に関すること】 ・家庭との連携や、集団・社会との関わりを重視した教材を取り入れており、家庭と連携する学習活動を示した箇所、マークを付けている。 【記入や記録に関すること】 ・巻末に1ページ分振り返りの欄がある。4種類ある「学びのページ」内に自分の考えを整理し、深める欄がある。 ・巻頭には自分のことを記入する欄がある。 ・いくつかの話を通じて学習する教材では、それぞれの教材を学習した後の中扉のページに学習を通して考えたことを記入する欄がある。 【判型に関すること】 ・A4判を採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 ・字間や行間にはゆとりがある。 ・漢字は、当該学年以降に担当されている漢字のすべてにふりがながついている。 ・活字は、大きく、見やすい書体(ユニバーサルフォント)を使用している。 【内容項目や主題の示し方】 ・教材の初めに内容項目や主題は表示しないことで、児童に問題意識をもたせ主体的な学びになるようにしている。 【読みやすさ】 ・全てが見開きで始まるようになっている。 ・読みやすさを考えた改行となっている。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 ・児童にとって読み違いが起りにくいユニバーサルデザインフォントを採用。カラーユニバーサルデザインにも配慮している。 【マークやキャラクターに関すること】 ・色別のインデックスや取組がわかるマークがある。 ・道徳の内容の4つの視点ごとのマークがある。
232 廣あかつき	みんなでかんがえ、はなしあうしようがくせいのどうとく1 じぶんをみつめ、かんがえる どうとくノート1 みんなで考え、話し合う小学生のどうとく2 自分を見つめ、考える どうとくノート2 みんなで考え、話し合う小学生のどうとく3 自分を見つめ、考える どうとくノート3 みんなで考え、話し合う小学生のどうとく4 自分を見つめ、考える どうとくノート4 みんなで考え、話し合う小学生の道徳5 自分を見つめ、考える道徳ノート5 みんなで考え、話し合う小学生の道徳6 自分を見つめ、考える道徳ノート6	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法第2条に示される教育の目標を達成するため、本冊の「みんなで考え、話し合う」と道徳ノートの「自分を見つめ、考える」ことを基本方針として編修している。また、3つの視点で編修している。 ・豊かな情操と道徳心を培う本冊と「道徳ノート」に関しては、本冊では、児童の主体的な思考、積極的な話し合いを促す構成とし、「道徳ノート」は、内容項目別に構成することで学習内容(道徳的諸価値)を明確化している。 ・魅力ある教材に関しては、「問題意識をもち多様に考えることができる教材」「自己の体験や経験に照らして考えることができる教材」「悩みや葛藤、心の揺れなど人間らしさが理解できる教材」「よりよく生きる喜びや勇気、感動を与えられる教材」を厳選している。 ・命の教育を重視することに関しては、内容項目「生命の尊さ」を、年間3時間を配当している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法に示されている「豊かな情操と道徳心を培うこと」に関連して、「学習を広げる」の中に、考えを深めるために「活動しよう」や「もっと考えよう」等が設けられている。 ・学校教育法に示されている「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」に関連して、巻頭に「学習の進め方」が示されている。教材の終わりに学習の手がかりとなる「考えよう話し合おう」が設けられている。 ・学習指導要領の主な改善事項である「体験活動の充実」に関連して、地域や公共の場所での節度ある行動やボランティア活動の大切さについて考える教材が取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【発問や話し合い等に関すること】 ・教材の前には、道徳的価値への方向付けを促す文と内容項目を玉の数と色であわわしたマークを記載している。 ・教材の後には、教材に関する発問と自分との関わりで考える発問が設定されている。また、3年生以上には、めあて、学習を広げることのできる内容も設定されている。 ・別冊の道徳ノートにより、各内容項目における道徳的価値の自覚を深める活動や問いを示している。 【いじめ防止に関すること】 ・人権、いじめ防止に関する教材を掲載し、発達の段階に応じてさまざまな角度から考えられるようにしている。 【現代的な課題に関すること】 ・情報モラル、食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育、持続可能な発展についての課題を掲載している。 【言語活動に関すること】 ・巻頭の「道徳の時間はこんな時間」において、意見の伝え方、聞き方、話し合い方等についての説明がされている。 【かわさき教育プランに関連すること】 ・「生命尊重」に重点をおいて編修している。各教材で生命や生きることについて考えられるようにしていることは、基本理念と関わると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学習の進め方に関すること】 ・道徳の時間について紹介するページを設けている。 ・「考えよう 話し合おう」が教材の後ろにあり、低学年では教材をもとに考える問いや自己に照らして考える問いが掲載されている。中学年と高学年はそれらの問いに加え、学習のめあてが示されている。 【内容項目に関すること(指導の重点化を含む)】 ・「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「生命の尊さ」を全学年共通の重点項目として各学年3教材を配当している。 ・低学年の「節度、節制」「規則の尊重」、中学年の「規則の尊重」、高学年の「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を学年別重点項目として各学年2教材を配当している。 【挿絵や写真に関すること】 ・発達の段階に応じてイラストの配置を工夫している。 【各教科等との関連に関すること】 ・各教科における学習内容や他の教育活動との内容的、時期的関連を考慮し、掲載順に取り扱うことで効果的な学習となるように配列をしている。 【家庭や地域との連携に関すること】 ・家族との関わりや家庭での出来事を描いた教材や、地域の人との交流や地域における行事などを題材とした教材を掲載している。 【記入や記録に関すること】 ・別冊の道徳ノートには、内容項目に準じた問いに対する記入欄や、教師の指示で記載内容を決めて使う記入欄がある。 ・道徳ノートの巻頭には自分のことを記入する欄があり、巻末には教材別自己評価シートと内容項目別自己評価シートが付いている。 ・フリーノートページとして、「学習の記録」「体験活動の記録」「話し合い活動の記録」「心に残っている授業の記録」のページがある。 【判型に関すること】 ・AB判を採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【文字に関すること(大きさ、字間、行間、書体、漢字、仮名遣い等)】 ・当該学年の配当漢字を含む未習の漢字にはふりがなをつけている。 【内容項目や主題の示し方】 ・教材の初めに題材へのいざないや道徳的価値への方向付けを促す文を記載している。 【読みやすさ】 ・見開きで始まる教材と左側のページから始まる教材がある。 ・4年までは発達の段階に即したわかりやすい表現を用いている。 【ユニバーサルデザイン・特別支援教育に関すること】 ・色の識別のみによらず、文字情報をはじめとして、マークの形状やデザインの違いなどで必要な情報が読み取れるように配慮している。 【マークやキャラクターに関すること】 ・教材の初めに玉の数と色で内容項目の視点を表している。